

講義科目名称： 介護等体験

授業コード： 5515A

英文科目名称： Practice in Social Volunteer Work

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3年	2単位(1-3)	教職科目（必修科目）
担当教員			
照屋 信治			
授業形態：講義・演習	ナンバリング：TTC320		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 介護等体験の意義を理解し、社会福祉施設、特別支援学校での体験を充実させたものにする。それらの体験を、他の受講生とシェアし、レポートにまとめ、発表会で報告することを通じて、体験の意義を何度も反芻し、血肉化する。 【到達目標】 （１）高齢者、障がい者と円滑にコミュニケーションをとれるようになる。（２）人の心の痛みを理解し、多様な価値観を受容できるようになる。
授業の概要	「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験(以下「介護等の体験」という。)を行わせる」(通称「介護等体験特例法」) ことになっている。その介護等体験を実りあるものにするための事前・事後指導を本授業では行う。
授業計画	第1回 オリエンテーション 本授業の概要説明。介護等体験の事務手続き。様々な社会福祉施設についての説明。 【事前学習】これまでの高齢者や障がい者との触れ合いを振り返る。 【事後学習】授業で配布されたレジュメを再読する。 第2回 高齢者施設について 教科書を読み合わせしながら、様々な高齢者福祉施設について学ぶ。 【事前学習】『よくわかる社会福祉施設 第4版』を読んでおく。15時間ほどの学修時間を必要とする。 【事後学習】授業のレジュメを再読する。 第3回 疑似高齢者体験 高齢者体験グッズを用いて、高齢者の身体的な不具合を体験する。それを通じて、高齢者の気持ちに接近したい。 【事前学習】『よくわかる社会福祉施設 第4版』の高齢者福祉施設の項目を熟読する。 【事後学習】授業のレジュメを再読する。 第4回 障がい者施設について 教科書の読み合わせを行い、様々な障がい者施設について学ぶ。 【事前学習】『よくわかる社会福祉施設 第4版』の障がい者福祉施設の項目を熟読する。 【事後学習】授業のレジュメを再読する。 第5回 車いす体験 車いす体験を行い、私たちの環境が障がい者にとっていかにバリアの多い環境であるかを理解する。 【事前学習】とくになし。 【事後学習】大学を歩き回り、車いすユーザーにとってのバリアを発見する。 第6回 社会福祉施設からのメッセージ（講師：宮城樹正氏） 長年、高齢者福祉施設で勤務なさってきた宮城樹正氏から、高齢者福祉施設での体験が成功させるための助言をいただく。 【事前学習】『よくわかる社会福祉施設 第4版』の高齢者福祉施設の項目を熟読する。 【事後学習】授業のレジュメを再読する。 第7回 特別支援学校について① 教科書を読み合わせることで、特別支援学校についての知識を整理する。 【事前学習】『介護等体験ガイドブック フィリア』を熟読しておく。10時間程度の学修時間を必要とする。 【事後学習】授業のレジュメを再読する。 第8回 特別支援学校の見学 鏡が丘特別支援学校、あるいは大平特別支援学校を訪問し、施設を見学し、担当者から、特別支援学校での介護等体験についての注意事項をレクチャーしていただく（ガイダンス、スーツ着用）。 【事前学習】沖縄県内の特別支援学校のHPを熟読しておく。 【事後学習】配布された資料を熟読する。 第9回 特別支援教育について 中学校・高校での特別支援教育～自閉症の生徒の理解について。DVDを視聴し、どのような対応が可能か議論する。 【事前学習】『介護等体験ガイドブック フィリア』を再読する。

	【事後学習】 クラスメートと感想を交換する。 第10回 介護体験のQ&A（学生の発表） 教科書『介護等体験ガイドブック フィリア』の内容を学生が分担し、ミニレクチャーを行う。 【事前学習】ミニレクチャーを行うためのミニティーチングプランを作る。15時間程度の学修時間を必要とする。 【事後学習】教科書の再読。 第11回 社会福祉施設での体験の事後報告会①（高齢者福祉施設） 社会福祉施設での体験の事後報告会を、体験の実施日程により、複数回に分けて行う。体験を言葉にすることで意味をその確認する。 【事前学習】事後報告会でのスピーチ原稿を作成する。 【事後学習】他の学生と意見を交換する。 第12回 社会福祉施設での体験の事後報告会②（障がい者福祉施設、児童福祉施設、生活保護にかかわる施設） 社会福祉施設での体験の事後報告会を、体験の実施日程により、複数回に分けて行う。体験を言葉にすることで意味をその確認する。 【事前学習】事後報告会でのスピーチ原稿を作成する。 【事後学習】他の学生と意見を交換する。 第13回 特別支援学校での体験の事後報告会①（知的発達に遅れのある生徒との関わり） 特別支援学校での体験の事後報告会を、体験の実施日程により、複数回に分けて行う。体験を言葉にすることで意味をその確認する。 【事前学習】事後報告会でのスピーチ原稿を作成する。 【事後学習】他の学生と意見を交換する。 第14回 特別支援学校での体験の事後報告会②（肢体不自由児との関わり） 特別支援学校での体験の事後報告会を、体験の実施日程により、複数回に分けて行う。体験を言葉にすることで意味をその確認する。 【事前学習】事後報告会でのスピーチ原稿を作成する。 【事後学習】他の学生と意見を交換する。 第15回 介護等体験報告会 教職課程履修中の1、2年生への介護等体験報告会を行う。レポート集を作成し、体験の意義を報告することで、その意義を再確認する。 【事前学習】事後報告会でのスピーチ原稿を作成する。報告会冊子を作成する。報告会の役割分担を行う。事前に10時間以上の準備・学修を必要とする。 【事後学習】報告会に参加した1、2年の学生と意見を交換する。 ※講義以外に60時間の学修時間を要する。概ね、2冊のテキストを読むことに30時間、各回の【事前学習】に30分、【事後学習】に30分、報告会準備に10時間、感謝文・お礼状等の作成に5時間を想定している。 第16回 なし
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【 】 3) ICTの活用 【 】 4) 初年次教育 【 】 5) 実践的PBL 【 】
テキスト	『よくわかる社会福祉施設 第4版』全国社会福祉協議会、図書印刷株式会社 『介護等体験ガイドブック フィリア』全国特別支援学校長会編著、ジアース教育新社
参考書	権田真吾『ぼくはアスペルガー症候群』彩図社、2014年 岡野雄一『ペコロスの母に会いに行く』西日本新聞社、2012年
評価方法	授業への貢献度（56%）、発言の質（29%）、体験先の担当者の評価（15%）。それらをもとに総合的に評価する。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F）60点未満：到達目標を達成していない 欠（K）—：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【D P 1～4との関連】 … 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること … 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること … 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること … 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1 履修要件としてスクリーニングテストに合格、仮合格していること 2 前期配当科目となっているが、10月まで体験が行われることもあるので、前期後期ともに在籍していること。 3 スクリーニングの仮合格の者で、本科履修中に、教職課程の履修を断念しても、最後の報告会まで参加し、単位習得を目指すこと。

	3 ふまじめな態度、教員にふさわしくない態度があった場合、履修を差し止めまることもあります。
オフィスアワー	月曜日・火曜日の昼休み、北棟4-3研究室
課題に対する フィードバック方法	課題は極力コメントを付し授業中に返却する。

講義科目名称： 道徳教育の理論と方法

授業コード： 5531A

英文科目名称： Theories and Methods of Moral Education

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3年	2単位 (2-0)	教職科目 (必修科目)
担当教員			
照屋 信治			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC302		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 道徳教育の意義や原理を踏まえ、歴史と現代的課題を学び、道徳教育の実践者としての基礎を養い、学校教育における授業実践・教育実践の準備を行う。 【到達目標】 ①道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。②子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。③学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主要内容を理解している。④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主要内容を理解している。⑤学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。⑥道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。⑦道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。⑧授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。⑨道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。⑩模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。		
授業の概要	主に日本の学校教育との関わりで道徳教育の歴史と理論を振り返り、道徳に関わる教育問題を検討し、学校における道徳教育実践を検討する。それらを通じて、道徳教育に関する基礎的な素養の獲得を目指す。そのうえで、学校教育の場における道徳指導、特別の教科である道徳の授業の指導案作成・模擬授業が行えるように、複数の教授法を学び、教材の特質を研究する。		
授業計画	第1回 授業の概要説明、道徳教育の体験を語り合う 本講義の概要説明。道徳教育はどうあるべきか。評価方法の確認。今まで受けてきた学校での道徳教育の経験をクラスメイトとシェアする。 【事前学習】自身が受けてきた道徳教育を振り返り、あるべき道徳の授業について話せるように準備をする。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 第2回 同和（人権）教育を学ぶ①（その歴史と現状） 部落差別に関して学ぶ。道徳教育の大原則は他者の尊重であり、人権の尊重である。それが十全に保障されていない現状を学ぶ。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 第3回 同和（人権）教育を学ぶ②（多文化共生時代の道徳教育の在り方） 同和教育の実践を確認する。また、ロールプレイを用いたアクティビティを行う。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 第4回 道徳教育の歴史①（戦前の修身教育と教育勅語） 「教育勅語」に象徴される戦前の修身教育の在り方を理解する。その上で、現代の道徳教育がどのようなものかを理解する。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 第5回 道徳教育の歴史②（戦後の道徳の教科化をめぐる議論） 1958年の「道徳の時間」の特設をめぐる議論を確認する。さらに近年の教科化をめぐる議論を理解する。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 第6回 学習指導要領と道徳教育―「愛国心」と道徳教育を考える 学習指導要領の道徳の内容と理念を確認したうえで、「我が国と郷土を愛し」という個所がなぜ議論の焦点となるのかを理解する。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 第7回 「心のノート」（私たちの道徳）の意義と問題点を考える 『心のノート』の作成経緯を理解し、その問題点を確認する。それと同時に『心のノート』を引き継いだ『私たちの道徳』の活用法を検討する。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 第8回 いじめ問題を考える 「葬式ごっこ」を検討し、「いじめの四層構造」を理解し、学級担任として、どのような指導が求められているのかを確認する。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。		

第9回	〈生・性・死〉の授業の意義を考える 「生命に対する畏敬の念」はどのようにして育まれるのかを考える。ニワトリを殺して食べる授業実践を検討する。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。
第10回	道徳の指導案の作成について 道徳の学習指導案の作成方法を教授し、実際に学習指導要領を作成する。学期末に提出する。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】道徳の指導案を作成し提出してもらう。提出前に、授業外でクラスメイトとミニ模擬授業をおこなってもらう。指導案の作成のための調べる作業、作成作業、ミニ模擬授業で30時間ほどの学修時間を必要とする。
第11回	道徳教育と構成的グループエンカウンター 人間関係づくりの手法として構成的グループ・エンカウターの有効性が指摘されている。構成的グループ・エンカウターの理解と道徳教育での活用法を学ぶ。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】構成的グループエンカウンターを用いた授業案を複数読んでもらう。
第12回	道徳性の発達（コールバーグ）とモラルジレンマ授業①（理論） 道徳性の発達理論の一つとしてコールバーグが提唱したモラルジレンマ授業の理論を理解する。また、代表的な授業を体験してみる。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】モラルジレンマ教材を複数目を通してもらう。
第13回	道徳性の発達（コールバーグ）とモラルジレンマ授業②（教育実践例） コールバーグのモラルジレンマ授業への批判を踏まえうえて、別のモラルジレンマの授業を体験してもらい、その授業検討会を行う。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】モラルジレンマ教材を複数目を通してもらう。
第14回	学生による模擬授業と反省会①（構成的グループエンカウンター） 学生に構成的グループ・エンカウンターを用いた道徳授業の模擬授業を行ってもらう。また、指導案を読み込み、自分なりにどう改良できるか考えてみる。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】構成的グループエンカウンターを用いた授業案を複数読んでもらう。
第15回	学生による模擬授業と反省会②（モラルジレンマの授業）と小テスト 学生にモラルジレンマの模擬授業を行ってもらう。授業者である学生は、開講直後より教員の指導を受け授業づくりをしてもらう。他の学生には、生徒役で体験してもらう。また、本講義のまとめとして、授業内容確認のための小テストを行う。 【事前学習】これまでの授業のレジュメを各1時間程度かけ再読し、小テストに備えてもらう。14時間程度の学修時間を必要とする。 【事後学習】小テストの復習をしてもらう（2時間程度）
	※講義以外に60時間の学修時間を要する。概ね、各回の【事前学習】に30分、【事後学習】に30分、テスト前準備に14時間、テストの復習に2時間、レポート（学習指導案）作成に30時間を想定している。
第16回	なし
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【 】 3) ICTの活用 【 】 4) 初年次教育 【 】 5) 実践的PBL 【 】
テキスト	講師が配布する資料、プリントをテキストとして用いる。
参考書	柴田義松（編著）『道徳育～理論と実践』学文社 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月公示予定 文部科学省）
評価方法	授業中の課題点（70%）（授業態度、発言の質等含む）、テスト点（30%）、
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F）60点未満：到達目標を達成していない 欠（K） — ：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【D P 1～4との関連】 【○】1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【 】2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 【○】3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 【 】4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること

履修上の注意	1 履修要件として、教育の原理、教育の制度を履修済みであること。 2 「教育課程及び指導法」に関する科目である。教師になる強い意志を持って履修すること。 出席状況等を十分加味する。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する。 3 私語、居眠り、内職など、教師としてふさわしくない授業態度の者には単位を認定しない。
オフィスアワー	月曜日・火曜日の昼休み、北棟4-3研究室
課題に対する フィードバック方法	課題はコメントを付し、授業中に返却する。

講義科目名称： 教育総合研究

授業コード： 5521A

英文科目名称： Integrated Studies in Education

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	4年	2単位(2-0)	教職科目 (必修科目)
担当教員			
照屋 信治			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC321		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 教育実習直前の学生を対象に、これまで学んできた教職科目の知見を総合して、教育に関する見識を深める。 また、模擬授業を行い、授業実践力を高める。 【到達目標】 (1) 学校教育の現状や課題を総合的に理解する。(2) 道徳、HRの模擬授業を行える。		
授業の概要	①これまで学んできた教職科目の知見を総合して、様々な教育問題を受講者中心に討議していただく。 ②さらに、教育実習において、道徳の授業あるいはHRでの授業を行うことになるので、その模擬授業を行い、教育実習に備える。		
授業計画	第1回	講義の概要説明 本講義の概要説明。評価方法の確認。 【事前学習】これまでの教職課程での学びを振り返る。 【事後学習】模擬授業を行うための教材選びを行う。テーマ、教材選び、教員との2回の面談指導、指導案の作成、数人のクラスメートとの模擬授業の練習で45時間ほどの学修時間を必要とする。	
	第2回	教育問題についての討議①(いじめ問題) いじめ問題のケーススタディーを行う。あなたが担任ならどのような働きかけを行うか。 【事前学習】いじめ問題についての意見をまとめておく。 【事後学習】ケースに関する対応を考える。	
	第3回	教育問題についての討議②(小学校外国語活動、小学校英語について) 小学校における英語教育についての論文を輪読し、そのあり方を議論する。 【事前学習】課題論文を熟読する。 【事後学習】関連した論文を探して読む。	
	第4回	教育問題についての討議③(子どもの貧困について) 子どもの貧困についての教育論文を読み、教員としてどのようなことができるのかを話し合う。 【事前学習】子供の貧困についての意見をまとめておく。 【事後学習】関連した論文を探して読む。	
	第5回	模擬授業と反省会①(道徳の授業、モラルジレンマの授業) 参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。 【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。	
	第6回	模擬授業と反省会②(道徳の授業、構成的グループエンカウンターを用いた授業) 参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。 【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。	
	第7回	模擬授業と反省会③(道徳の授業、主として自分自身に関すること) 参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。 【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。	
	第8回	模擬授業と反省会④(道徳の授業、主として他の人とのかわりに関すること。) 参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。 【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。	
	第9回	模擬授業と反省会⑤(道徳の授業、主として自然や崇高なものとのかわりに関すること。)	

	参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。 【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。
第10回	模擬授業と反省会⑥（道徳の授業、主として集団や社会とのかかわりに関すること。） 参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。 【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。
第11回	模擬授業と反省会⑦（道徳の授業、同和・人権教育に関連して） 参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。 【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。
第12回	模擬授業と反省会⑧（道徳の授業、国際理解教育に関連して） 参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。 【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。
第13回	模擬授業と反省会⑨（特別活動、クラスづくりのための授業） 参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。 【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。
第14回	模擬授業と反省会⑩（特別活動、適応と成長及び健康安全に関する授業） 参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。 【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。
第15回	模擬授業と反省会⑪（特別活動、進路について考える授業） 参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。模擬授業を50分行った後に、40分の反省会をもつ。授業者は膨大な予習時間が必要である。生徒役の受講者は、授業後に、授業へのコメントを述べる。 【事前学習】とくになし 【事後学習】配布された学習指導案を熟読し、自身で行うならどこを改変するかを考える。
第16回	※講義以外に60時間の学修時間を要する。概ね、第1回～第4回までの【事前学習】に60分（計4時間）、各回の【事後学習】に60分（計15時間）、模擬授業指導案作成（2回の教員との個別面談指導、プレ模擬授業を含む）に41時間を想定している。 なし
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 { } 3) ICTの活用 { } 4) 初年次教育 { } 5) 実践的PBL { }
テキスト	講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。
参考書	講義中に適宜お知らせする。 文部科学省『中学校学習指導要領』
評価方法	授業への参加・貢献度（30%）、発言の質（30%）、模擬授業（40%）によって総合的に評価する。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良（C）70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可（D）60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可（F）60点未満：到達目標を達成していない

	欠 (K) — : 出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【D P 1～4との関連】 ・ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ・ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ・ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ・ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1 3年次までの教員免許に係る科目を全て修得し、教育実習参加を前提とする。 2 教育実習の実施年度に履修することが望ましい。
オフィスアワー	月と水の昼食時間、北棟4-3研究室
課題に対するフィードバック方法	課題にはコメントを付し授業中に返却する。模擬授業には口頭でコメントと助言を行う。

講義科目名称： 学校ボランティア実習

授業コード： E224A

英文科目名称： School Volunteer

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年次	2単位 (0-2)	教職科目：選択科目
担当教員			
照屋 信治			
授業形態：演習	ナンバリング：TTC205		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	【テーマ】 学校ボランティアの意義を理解し、体験する。 【到達目標】 学校における学習支援や教育活動の補助を通じて、1) 社会奉仕の精神と習慣を身につけ、2) 支援の必要な人々への共感を養い、3) 学校教育への理解を深め、4) 自身の教師として適性を確認する。また、5) 教育への使命感を養い、6) 対人関係能力を高め、7) 児童生徒への理解を深め、8) 学校で学ぶ教科等に習熟することを目指す。
授業の概要	学校ボランティアの意義や心構えを理解し、西原町内の小学校・中学校において、1) 学習支援ボランティア、2) 特別支援ボランティア、3) 授業補助、4) 学級事務補助、5) その他の学校教育活動に関するボランティア、を行う。月曜日の午後に、1回3時間程度の学校ボランティアを、10週間、行う。途中、2回の中間報告会、1回の成果報告会を行い、経験を共有することで、上記の達成目標を目指す。
授業計画	実習の流れ 1 学修支援の目的と意義、必要性 2 実習校の調査、配置、名簿作成、記録簿の作成手順 3 学習支援ボランティア、特別支援ボランティアの事例研究 4 教師の仕事、学校教育への理解を深める 5 中間報告会①（実習を3回終了後の土曜日、直面する困難の共有を中心に） 6 中間報告会②（実習を7回終了後の土曜日、自身の課題の報告を中心に） 7 成果報告会 体験10回（各回4時間程度） 実習校の実情に応じて、担当者の指示に従い、1) 学習支援ボランティア、2) 特別支援ボランティア、3) 授業補助、4) 学級事務補助、5) その他の学校教育活動に関するボランティア、を行う。 【事前学習】霜田浩信『学校ボランティアハンドブック』（ほんの森出版、2011年）を熟読すること。 【事後学習】沖縄キリスト教学院大学『学校ボランティア日誌』（2019年）に反省事項を記入すること。
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【】 3) ICTの活用 【】 4) 初年次教育 【】 5) 実践的PBL 【○】
テキスト	なし。必要に応じて随時紹介する。
参考書	霜田浩信『学校ボランティアハンドブック』ほんの森出版、2011年 沖縄キリスト教学院大学『学校ボランティア日誌』2019年
評価方法	実習校からの評価40%、報告会での発言・態度40%、提出物20%
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 【○】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 【】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 【○】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	西原町内の小学校で役割を与えられる。やむをえない事情がない限り休まずに自身の役割をこなすこと。しっかりとした大人として小学生の教育を支援すること。
オフィスアワー	月曜日・火曜日の昼休み、北棟4-3研究室
課題に対するフィードバック方	発表会においてコメントする。『学校ボランティア日誌』でフィードバックする。

